

第16回福井県嶺南地域流域検討会の審議内容のご紹介

早瀬川水系の河川整備について

早瀬川水系の河川整備について、河川管理者から説明が行われました。

- 第15回流域検討会における質問事項の回答について
- 湖内の濁り（SS）の環境予測の報告について
- トンネル放流による海域環境への影響検討の報告について

◎これまでの検討会の経緯



◎委員からの主な意見

◇第15回流域検討会における質問事項の回答について

■平成19年1月7日における臭気の発生過程の検証

1. 1月7日の海山地区での臭気発生過程の検証についてはわかったが、放流が必要な夏場の台風時期については、強風により上下混合がはげしくなることが予想されるため、強風時を想定した検証を行うべきではないか？

⇒【事務局】これまでのシミュレーションにおいては、台風の24時間移動平均風速を与えていたが、台風による強風時の風速を考慮した場合の影響についても、一度シミュレーションを行い、報告したいと考えています。

2. 水月湖における硫化水素の巻き上げの起こりやすさの要因となる鉛直密度分布について、夏季と冬季とで異なる結果となっているが、密度差に及ぼす塩分と水温とでの影響の度合いはどちらが大きいのか？

⇒【事務局】一度確認を行います。

■湖内振動の影響の検証

3. 湖内シミュレーションの計算間隔はどれくらいか？湖内シミュレーションの際にモニター点を設け、短い周期の振動を確認してほしい。

⇒【事務局】湖内シミュレーションの計算間隔は秒オーダー（0.25 秒）ですが、計算出力は1時間であるため、今の計算結果からでは短い周期の振動についてはわかりません。モニター点での短い周期変動の確認については今後検討します。

4. 内部境界面の変動について、塩分の時間変動を追いかけるのではなく、等しい密度面を線で表示すると内部境界面が何m上昇したか判り易くなると思う。

◇湖内の濁り（SS）の環境予測の報告について

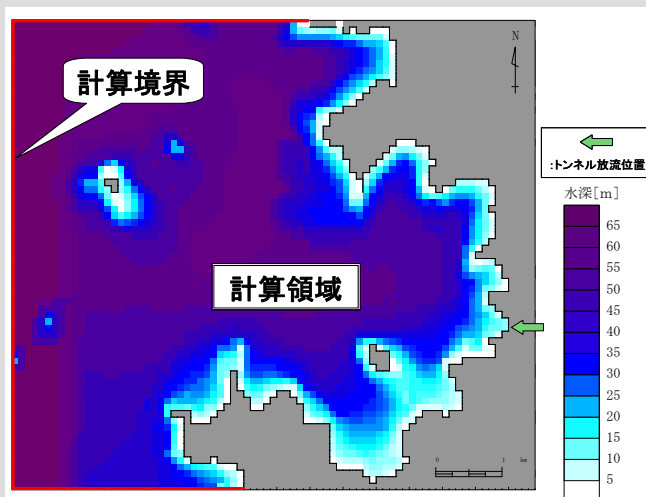
5. 湖内の濁りのシミュレーション結果をみると、湖内の濁りは40時間程度で平常に戻るといっているが、実際の出水時における現地観測結果との検証は必要ではないか？その際、湖内数点、鮎川河口における流量とSS濃度の関係、さらに世久見湾の調査も必要ではないか？

⇒【事務局】濁度に関する検証については、鮎川河口部で、今後出水があった時に調査を行っていく予定であり、データを蓄積したうえで検証を行っていきたいと考えています。

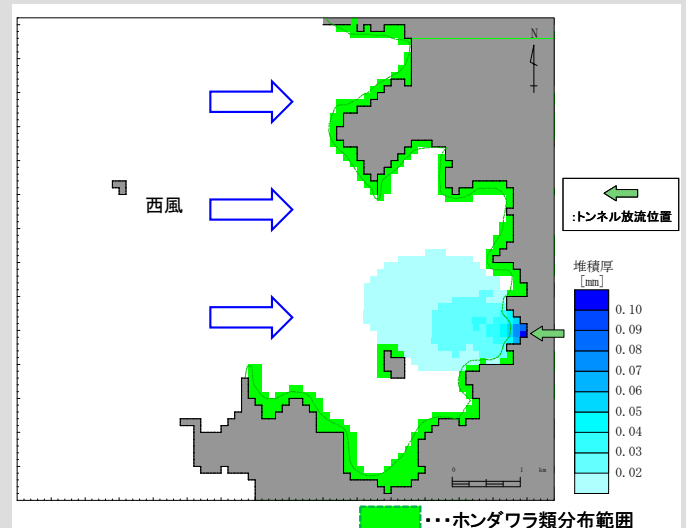
◇トンネル放流による海域環境への影響検討の報告について

6. 0.1mm 堆積するという濁りのシミュレーション結果は1回の放水による値か？放水を重ねて、5年・10年と年数が経つと、堆積厚が大きくなり、植物の光合成やサザエ等の卵への影響は大きいのではないかとと思われる。この問題については、長い目で見た場合のことも深刻に考えておく必要があるのではないか？

⇒【事務局】0.1mm は30年確率規模における出水放流を1回行った時の堆積厚であり、海域での堆積物の移動等については考慮しておりません。堆積物の蓄積については、今後、どういった洪水の際に放水路による放水を行うかといった運用について検討を行った後でないとは考慮できないため、今後検討したいと考えています。



世久見湾における海域シミュレーション範囲



西風を吹かせた場合のSS堆積厚

7. サザエやアワビなどの産卵期は台風シーズンの後に位置し、その卵の大きさは0.1mm程度であることから、世久見湾の海底に浮泥が溜まったままであると底生生物の産卵への影響はある。

（サザエの産卵期：夏季、アワビの産卵期：晩夏～秋季）

8. 検討会における検討内容は、いわゆる想定内のケースでの検討である。昨今、想定外の現象が起きているので、さらに危険な条件を想定した想定外での検討は必要ではないか？